

福井良之助
孔版画

Title unknown | 作品名不詳 | 制作年不詳 | 175 × 381mm | 紙、孔版画 | 限定部数：5 |
| Production year unknown | 175 × 381mm | Mimeograph | Edition: 5 |

凝固した愛 | 1964年 | 300 × 456mm | 紙、孔版画 | 限定部数：10 |
Love Solidified | 1964 | 300 × 456mm | Mimeograph | Edition: 10 |

たとえば、そこにあるのはありふれた風景、
ありふれた魚、ありふれた道具。

そんな半径5メートルの世界で、
そのガリ版という印刷機材は
本来のじぶんの領分など

すっかり忘れてしまいがら、
風景や魚を、

この世ではじめてひとの目にさらすかのように
描きます。

硬くはそい線、にじんだ壁のようなチラのある肌感。
ずれたり、ひつくりかえったりして重なる版。

すでに知っているはずの世界は、あるとき一瞬で、
これから知るべき世界にすがたを変える。

福井良之助の場合、
彼はガリ版という「測定器」を
自分のためだけに発見した。

「測定器」はあらかじめ与えられているものではない。
そういうどの時代も変わらない事柄が、
ガリ版によるこれらの版画からうける
不意打ちのひとつでもある。

ひまわりとあじさいと魚 | 1961年 | 190 × 378mm | 紙、孔版画 | 限定部数：10 |
Sunflowers, Hydrangeas and Fish | 1961 | 190 × 378mm | Mimeograph | Edition: 10 |

魚 | 1964年 | 185 × 398mm | 紙、孔版画 | 限定部数：5 |
Fish | 1964 | 185 × 398mm | Mimeograph | Edition: 5 |

福井良之助の孔版画について

福井良之助（1923、1986）はその生涯を洋画家として活動したが、彼は戦後日本を代表する版画家でもあった。そうした評価は通称・ガリ版として知られる謄写版を用いた版画表現に対するものである。ただし、そのほとんどは福井が三十代前半であった1950年代前半から約十年間に集中して制作されている。

謄写版とは蠟（ろう）引きの原紙（まがし）を鋳板（くわいばん）にあて、これに鉄筆で線などをひいて蠟をはがし、紙の繊維孔からインクをにじみ出させて印刷する孔版画の一種である。福井と孔版画との関わりは義兄の宮む謄写印刷業のアルバイトから始まる。まず、それは結婚して双子の男子を授かったばかりの福井が家族の生活を支えるための手段であったが、彼は生来の探究心からこの技法の持つ可能性を追求し始める。そうして油絵具やニスを用いたり、銅版画と併用したりすることで、福井独自の極めて緻密かつ豊潤な孔版画を制作するに至る。

しかし、福井の孔版画については、特殊な製版方法であったために作家が納得出来るものがごく少数しか刷れなかった上、その多くが海外へ渡ってしまった経緯などから、現在ではその存在や詳細が不明となっている作品も多い。2005年開催の「福井良之助孔版画展」（注1）において作成した「版画目録」も、掲載作品259点の内、82点の制作年が不詳であるなど、あくまで暫定的なものであった。

また、目録作成にあたって海外のパブリック・コレクションを調査したところ、福井の作品はアメリカではMOMA等、美術館6館と国公立図書館2館、オーストラリアでは公立美術館1館に収蔵されていた。尚、1969年のエッセー（注2）で福井は、俳優のエル・プリンナーやジョージ・チャキリス、スイス大使夫妻らとの交流について触れているが、今後はこうした海外のプライベート・コレクションの現状調査も重要であろう。近年、「版画目録」に掲載されていない孔版画が数点見つかったが、その内2点はアメリカから戻ってきたことが確認されている。

これらの事情から、福井の孔版画に関する調査研究はまだ始まったばかりと言っても過言ではない。残念ながら今日では福井の版画家としての評価は少々曖昧になっている感がある。まずは、この度のカタログ制作を機に一人でも多くの方に福井の孔版画の存在を知っていただきたいと願うばかりである。

黒川公二（佐倉市立美術館学芸員）

横顔 | 1962年頃 | 190 × 175mm | 紙、孔版画 | 限定部数不詳 | Profile | Circa 1962 | 190 × 175mm | Mimeograph | Edition copies unknown |

少女 | 1956年 | 268 × 277mm | 紙、孔版画 | 限定部数：5 | Girl | 1956 | 268 × 277mm | Mimeograph | Edition: 5 |

注1：2005年3月から7月まで佐倉市立美術館、高崎市美術館、岩手県立美術館の順で開催された巡回展。

注2：「異国の友人たち」（『藝術新潮』1969年11月号107ページ）新潮社）

静物（くずのはとさかな） | 1962年 | 213 × 379mm | 紙、孔版画 | 限定部数：10 |
Still Life (Kudzu Leaf and Fish) | 1962 | 213 × 379mm | Mimeograph | Edition: 10 |

作品名不詳 | 制作年不詳 | 120 × 275mm | 紙、孔版画 | 限定部数：15 |
Title unknown | Production year unknown | 120 × 275mm | Mimeograph | Edition: 15 |

木立 |
1962年頃 |
238 × 178mm |
紙、孔版画 |
限定部数不詳 |

Trees |
Circa 1962 |
238 × 178mm |
Mimeograph |
Edition copies unknown |

作品名不詳 | 制作年不詳 | 265 × 289mm | 紙、孔版画 | 限定部数：5 |
Title unknown | Production year unknown | 265 × 289mm | Mimeograph | Edition: 5 |

反抗者としての福井良之助

佐倉市立美術館で福井良之助の展覧会を見たのは、ほんの偶然だった。近くにあつて、申し訳ないがはるかに名の知れた国立歴史民俗博物館か川村記念美術館に行つた帰りに、せっかくなので来たんだからと寄つてみて、そうしたらちょうど福井良之助展が開催中だったと思う。

洋画家としての福井良之助も僕は不勉強で知らなかつたから、壁にずらりと並んだ孔版画のシリーズには心底驚いた。孔版といえは聞かへないが、ようするにガリ版だ。いま56歳の僕ですらからうじて、小学校の低学年あたりに学校のプリントに使われていたぐらいの思い出しかないガリ版から、これほど精緻な画面と優美な彩色が生まれるとは……いったいどんなふうにしたらできるのか、想像もつかない。

19世紀の終わりにエジソンが発明し、日本の堀井新治郎が完成させたというガリ版II騰写版は、終戦後の1950年代から60年代にかけて、日本でもっとも一般的な簡易印刷システムだった。学校のプリント、映画の台本、労働運動のアジビラ……それは芸術的な技法でもなんでもなく、その当時いちばん安くて手軽な複製メディアだったにすぎない。

2012年のいま、福井良之助の孔版画を見るものは、そのデリケートな美しさに感動するわけだが、福井が孔版画を集中的に制作していた50年代中期から10年足らずの時期は、世の中にガリ版があふれていた時代だ。レトロでもなんでもなく、専門家にしか使いこなせないものではない、いちばんありふれていた画材、それがガリ版だった。そして福井はその、当時の感覚で言えはまったくアーティストックではない、究極に「タサイ」メディアを、みずからの表現方法としてあえて選びとっていたのだつた。

数年前、奄美大島に屋嘉比ひろしというアーティストの取材に行つたことがある。ひろし君は高機能自閉症で養護学校中等部に通いながら、お母さんが買ったパソコンについていたペイントというお絵かきソフトをいじっているうち、突然に絵を描きはじめた。田中一村の絵を模写したり、大好きなフェリーや自動車や中島みゆきを、わずか10分かそこらで、それもタブレットすら使わずマウスだけでサツと描き上げ、そのあとは「放つとくと消しちゃうんで、わたしが保存してるんです」とお母さん。そしてその絵は、ちょうど大竹伸朗の『日本景』を思わせるような、見事に単純化された色面によるミニクな作品だつた。

何十万円もするアドビのイラストレーターやタブレットではなく、おまけにしているようなお絵かきソフトとマウスから、プロにも負けない作品が生み出される痛快さ。それが絵画でも、僕が仕事にしている写真でも、ほかの分野でもさうだろうが、往々にして高価な道具や素材を使うことが、優れた作品を作る前提と勘違いされる。まるで必要ない高解像度、何百年も色が変わらないという油絵具や印画紙……そういうものにお金を遣うことが、なんらかの達成感を生んだりもする。また、なんにも生み出していないのに。

福井良之助の孔版画作品は、海外のエコクシヨンが多いと聞く。ガリ版は日本でとりわけ発達したメディアで、欧米ではそんなに普及しなかつたから、かえつて「たかがガリ版だろ」という偏見がなかつたのだろう。優雅な画面と、その裏に隠された反骨精神とのミックス——それは僕の思い込みにも過ぎないかもしれないが、のちに洋画の大家となる福井良之助の、若き日のバンク・スプリットにやっぱり共感してしまうのだ。

Title unknown | 作品名不詳 | 制作年不詳 | 195 × 338mm | 紙、孔版画 | 限定部数 : 5 |
| Production year unknown | 195 × 338mm | Mimeograph | Edition: 5 |

福井良之助 孔版画 Ryonosuke Fukui — Mimeograph

執筆：
黒川 公二
都築 響一

デザイン：本郷 かおる (switch point)

発行日：2012 年 3 月 31 日

企画・編集：薄井 みゆき

発行所：
ギャラリー石榴
390-0821 長野県松本市筑摩 2-17-10
tel. 0263-27-5396 Fax.0263-27-2351
www.g-sekiryu.com

GALLERY SEKIRYU
2-17-10 Tsukama, Matsumoto City,
Nagano 3900082, Japan

ギャラリー石榴 南青山 Room
107-0062 東京都港区南青山 1-11-39-202
tel. 03-6438-9690

GALLERY SEKIRYU
Minami-aoyama room
1-11-39-202 Minami-aoyama,
Minato-ku, Tokyo, 1070062, Japan

福井良之助 1923-1986

1955 年 32 才
謄写版によるカット描きのアルバイトをきっかけに、
およそ 10 年のあいだ集中的に孔版画を制作し、評価を得る。

1965 年 42 才
しだいに油絵の仕事へと軸足をうつす。
以降、没するまで“洋画家”として人気を博す。

けし (2) | 1959 年 | 266 × 392mm | 紙、孔版画 | 限定部数 : 5 |
Poppies 2 | 1959 | 266 × 392mm | Mimeograph | Edition: 5 |

Helichrysums | 制作年不詳 | 155 × 130mm | 紙、孔版画 | 限定部数 : 15 |
| Production year unknown | 155 × 130mm | Mimeograph | Edition: 15 |